

社会教育委員ニューズレター 第17号

発行 佐賀県社会教育委員連絡協議会
 事務局 佐賀県民環境部まなび課内

県社教委連第1回理事会

5月9日、年度初めの理事会を開催しました。

協議事項として、令和5年度佐賀県社会教育委員連絡協議会役員案、令和4年度事業報告・決算報告、令和5年度活動方針案、令和5年度事業計画案及び収支予算案等について協議し、総会に諮ることが決定されました。

「佐賀県社会教育委員連絡協議会表彰」については、3名の方の表彰が決定されました。

また、令和4年度の協議会の「活動方針」の取組状況の報告を行い、教育委員と社会教育委員の意見交換や学校教育と社会教育の連携などの各市町での取組状況について確認し、第2回目の理事会で促進のための対応策について協議することになりました。

令和5年度 佐賀県社会教育委員連絡協議会役員

役職	氏名	所属	地元での活動等
会長	上野 景三	佐城（佐賀市）	社会教育委員
副会長	山口 ひろみ	県社会教育委員	子育て支援
副会長	緒方 哲哉	唐松（唐津市）	社会教育委員
理事	庄嶋 巖	三神（神埼市）	青少年育成
理事	諸石 一三	杵西（大町町）	伝承芸能活動
理事	川下 武則	藤津（太良町）	社会教育委員長
監事	池田 豊子	杵西（伊万里市）	社会教育副委員長
監事	納 富 弘明	三神（みやき町）	子どもクラブ

県社教委連総会

5月30日、東与賀文化ホールにおいて開催しました。

○開会行事

上野会長から、「地域の教育力の低下や家庭の孤立などの問題は複雑・困難化し、共に学びあう社会教育や地域と学校の連携の強化が重要となっており、社会教育委員として果たすことができる大きな役割がある。」などの御挨拶がありました。

また、佐賀県民環境部の宮原副部長が来賓の祝辞の中で、日頃の委員活動に対する感謝等を述べられました。



○県社教委連表彰

平成30年度から創設した標記表彰について、今年度は3名の方を表彰しました。

***受賞おめでとうございます。**

唐津市 甲斐 今日子氏（10年）
 みやき町 木下 信行氏（11年）
 有田町 福島スミ子氏（10年）
 （ ）は、社会教育委員在任の期間

【表彰基準】
 社会教育委員として10年以上在任し、社会教育の振興に功績があつた者

上野会長の向かって右は福島さんです。左側は甲斐さん木下さんの代理の方です。



○議事

議長に選出された神埼市の平野委員長の進行のもと、次の4議案について審議され、異議なく承認されました。

第1号議案

令和4年度事業報告及び決算報告並びに監査報告について

4年度の支出は、実践研修会の会場費や全国社会教育研究大会広島大会の旅費等の減により予算と比較し約21万6千円少なくなりました。一方、収入は実践研修会の参加者が見込みより32人増えたことなどから約1万6千円増えました。基金からの繰り入れは、ありませんでした。

実践研修会を1月に開催し、多くの社会教育委員や行政職員の参加がありました。

池田監事から監査報告が行われ、適正に処理されていたことが報告されました。

第2号議案

令和5年度佐賀県社会教育委員連絡協議会役員について

1頁の表のとおり令和5年度の

役員が承認されました。

第3号議案

令和5年度活動方針案について

今年度の活動方針案については、次のとおりです。

特に1番目は、佐賀県社会教育委員の会議の提言内容に沿った方針案になっています。

《令和5年度活動方針》

- 一 社会教育委員は「地域の学校」「地域で育てる子ども」をテーマに、学校教育と社会教育の連携を進めよう。
- 二 ニューズレター年2回発行や社会教育委員の「見える化」を図り、広く住民に社会教育委員の活動を広めよう。
- 三 教育委員との意見交換の場を設け、協議を深めよう。
- 四 社会教育計画・生涯学習計画の策定を進めよう。

第4号議案

令和5年度事業計画並びに予算について

11月に全国社会教育研究大会と九州ブロック社会教育研究大会が宮崎市で、1月に県社会教育委員実践研修会を開催予定です。

基礎研修会

総会終了後に基礎研修会を開催しました。

まず、上野会長が「社会教育委員の基本的役割」について、役員になる一般的な背景や法律的な規定など新任の社会教育委員にもわかりやすく説明されました。

社会教育委員は、社会教育法第15条で市町等への任意設置（置くことができる）と規定されていますが、社会教育に関する補助金の審査があり実質的には必置となります。

教育委員会が学識経験者等の中から委嘱します。その職務は、社会教育に関する諸計画を立案すること、教育委員会の諮問に応じ意見を述べること、これらのために研究・調査を行うことなどがあります。

また、教育行政と住民自治（地域の問題など）をつなぐ基本的な役割があります。

このため、当連絡協議会は、教育委員との意見交換の機会の設定などを活動の方針としています。



■トークセッション

【コーディネーター】

○上野景三さん

西九州大学副学長

○山口ひろみさん（進行）

NPO法人唐津市子育て支援

情報センター長

【パネリスト】

○坂田茂光さん

まなび課副課長

○鴻上哲也さん

伊万里市民図書館長

○吉井久子さん

家読姉代表

【テーマ】

○読書活動等を通じた地域コミュニティ等との連携

【Theme】
●本に親しむ
「環境づくり」

（子どもの発達段階に応じた読書活動の推進）

・「読書活動は子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないもの」と県としても認識しています。

・子どもの読書環境の充実を図るため、県立図書館においては、平成27年から新刊児童書の全点購入等を行っています。

・子どもの発達段階（乳幼児期、小学生期、中学生期、高校生期）に応じ、地域・家庭等と連携し読書習慣の形成等を図っています。

（読み聞かせ講座等）

・学校や放課後児童クラブなどに講師を派遣し、読み聞かせの実演や助言、スキルアップのための講習等を行っています。

（読書ノート等の配布）

・読み聞かせノートを配布し家

庭内での読み聞かせを習慣づけたり、小学生に読書ノートを配布し読書や図書館利用の推進を図っています。

（佐賀県高等学校ビブリオバトル）

・高校生向けに、知的興味に応じた多様な読書活動を推進するため、自分が好きな本を5分間で紹介する「ビブリオバトル」を行っています。

（スクール読書チャレンジ運動）

・学校が子どもたちの読書推進を図るためのアイデアやイベントを企画して実施。終了後には、自ら評価を行い、その内容を公表しています。

（こころざしの森）※

・図書館の公園側に、ゆっくりくつろげる空間を設置。本を読むだけでなく飲食の持込もできます。

（みんなの森）※

・県では、誰もが自分らしく、心地よく過ごせる、やさしいまちのスタイル「さがすたいる」を進めており、県立図書館の北側に、高齢者や障害のある方など、誰もが自然体で心地よく読書できる専用ルーム「みんなの森」※を開設しました。大活字本や拡大読書器、

カームダウンコーナーがあります。
※森の字は3つの本で構成した創作漢字

【Theme】
●「まちづくり」を担う市民の図書館

（図書館の地域連携）

・伊万里市民図書館のスローガンは「伊万里をつくり市民とともにぞだつ市民の図書館」であり、市民と行政との協働は運営にも反映されています。

・友の会（図書館フレンズ）いまり約350人）は図書館運営の支援・協力に加え、提言も行っています。

・図書館の目的は地域住民の福祉の向上で、住民の生活や仕事に役立つこと、地域社会に貢献することが大切です。

・市民が借りた本を全部購入したとして計算したら市民一人当たりの還元額は、8652円になります。

・図書館は本を貸すだけでなく人々が知りたい、学びたい思いを支援し、個人の学びの成果を社会参加活動に活かし、地域の問題解決を図ることは、まちづくりにつながります。

・図書館のまちづくりのコンセプト「人々が集い、活動し・創造する図書館」は、『まちづくりと図書館』（大串夏美）という本の中に記述されています。

・図書館の地域連携実例①

伊万里市黒川町の8か所に無人の絵本箱「えほんのたね」を設置。住民の良心を信頼した運営で絵本の寄贈が続いています。

・図書館の地域連携実例②

保護者、地域の協力を得て学校図書館のリニューアルを行いました。改修し内装が魅力的になったこともあり利用が増え貸出冊数が前年比で約2倍になりました。また、読書意欲を喚起する取組で、家読※の実施率も向上しました。

・図書館の地域連携実例③

清掃・環境活動をライオンズクラブの方がボランティアで行うなど様々な団体で構成された「友の会」が連携をとりながら図書館の

支援をされています。

※家族ふれあい読書の意味。読書を通じコミュニケーションを図り家族の絆をつくる取組

【Theme】
●読書活動等による地域の「絆づくり」

（地域に根差した読書活動）

- ・孫と紙芝居等を楽しんでいたことなどから地元のおはなし会に加入した。神埼市から、家読モデル地区の設置の働きかけもあり、「家読姉」の活動を開始しました。
- ・お話会ケムケムの会員、子どもクラブや老人会、市営住宅の代表などのメンバー10人で委員会を構成しています。令和3年には野間読書推進賞を受賞しました。
- ・集落センターのミニ図書館（贈呈なども含め蔵書は約1700冊）の開館日（第2・4土曜日）には、のぼり旗や看板を設置して地区にお知らせをします。
- ・高齢者が多く住んでいる近く

の市営住宅の集会所に本の配達を行い、喜んでもらっています。本を契機として新たな交流ができ高齢者が楽しく元気に過ごせるようになるのがよいと思います。

・「うちどく姉だより」で本の紹介などを月1回、配布しています。また、年間の多読賞の表彰を行っています。

・地元の小学校などで、本の読み聞かせを行っており、子供たちは真剣に話を聞いてくれます。

・近くに、ベトナムの技能実習生のシェアハウスがあり、七夕やクリスマスに文化交流会なども行っています。



アンケートの内容

基礎研修会終了後に御記入いただいたアンケートでは、委員の9割、職員の8割の方が参考になったという回答をいただきました。その一部を掲載します。（構成上、記載内容を要約しています。）

（今後の活動等）

- ・研修を受けて社会教育委員になつてよかつたと思つた。事例を参考にして地域に取り入れたい。
- ・社会教育委員と教育委員の連携が大事だと思う。
- ・教育委員との意見交換を実行したい。
- ・教育委員との意見交換の場の設定を年度当初にすることが大切だと思う。
- ・委員同士で議論をするのが大切だと感じた。
- ・常日頃の活動で気づいたことを伝える役割を果たしていきたい。
- ・社会教育委員の会議進行で委員の意見を引出すようにしたい。

（基礎講座）

- ・社会教育委員の選任の背景から

の話が良かった。まずは「知ること」が第一歩だと思う。

- ・社会教育委員は、どんな仕事をしたらいいのか理解できました。
- ・社会教育の役割が良くわかつた。有意義な研修でした。

・講座を聞き、できることから少しでも役に立ちたいと思つた。

・新任にも基本的な内容がわかりやすかつた。

（トークセッション）

- ・トークセッションが有意義で、行動をしていこうと思つた。
- ・伊万里市民図書館の取組が素晴らしい。地元でも取り入れることができると思つた。
- ・図書館を地域づくりの観点から捉えられることを知り、面白いと思つた。
- ・絵本ボックスの設置を取り入れてみたい。
- ・読書を通じて家族との絆やまちづくりにつながるのだと感じた。近所とのコミュニケーションの手段として本はいいと感じた。
- ・読書活動がまちづくりや地域コミュニケーションの活性化につながる。がわかつた。
- ・家読姉の活動は高齢化社会の中

での取組ですばらしかった。
 ・本との出会いの大切さや人との絆の大事さを感じた。読み聞かせをしているので、多くの人に感動を与えたい。

・本に親しむ環境づくりを行う意義を確認することができた。
 ・生涯学習の大切さを感じた。

第65回全国社会教育研究大会宮崎大会・第53回九州ブロック社会教育研究大会宮崎大会概要予告

開催趣旨の概要

社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくりが重要になっている。全国各地の社会教育の実践を共有し広め、引き継ぐことにより、誰もが生きがいを感じ笑顔があふれる地域社会の創出につなげる。

研究テーマ

笑顔あふれる地域を創る社会教育の実践

期日

令和5年11月9日(木)
 全体会

令和5年11月10日(金)

分科会

- ① 学校・地域の連携・協働
- ② 家庭教育支援
- ③ 高齢者と社会教育
- ④ 地域の活性化
- ⑤ 社会教育委員の役割

会場

宮崎市民文化ホール
 ニューウェルシティ宮崎
 宮崎市民プラザ

「地域コミュニティの活性化に向けて」

鳥栖市 社会教育委員
 檜崎 タキコ

社会教育委員として役を頂き16年近くになります。様々な会合や研修会に参加させていただき、多くのことを学ばせていただきました。委員にはなったものの、何

もわからない頃は、「まず会合に参加することに意義あり」と県内の研修会はもちろん、九州大会や時には全国大会などに喜んで参加し先進地の情報を得て、自分に何ができるか考えたものです。

今、学校では、家庭・学校・地域が連携・協働し、心豊かにたくましい子どもを育む活動に力が入られています。私も学校運営委員の一人として体験活動コーディネーター役で動き回っています。

子どもたちは、この地域の美しい自然環境の中で温かい人と人とのつながりを大切にしてたくさん体験をしています。

一方、私は民間の放課後児童クラブの支援員として、学校から帰ってくる近くの小学生と一緒に楽しい時間を過ごしています。

そこで、放課後児童クラブでも遊びの中に地域や家庭との交流の場を作り、心身ともにたくましい子の成長を願って体験活動を仕組んでいます。その一端を紹介します。

高齢で畑仕事ができなくなっておじいさんの好意で眠った畑を貸していただき、遊びの中に農業

を取り入れ活動することにしました。そばには社会福祉法人の施設があり、そこでは、体に障がいがあっても、太陽の下で楽しそうに野菜を育てておられます。



マルチはりど畝づくり

「地域で子どもを育てましょう。」と施設の園長さんと相談をして、職員の方にも協力していただくようになりました。

また、近くの農家の方には野菜作りに必要な堆肥や麦わら、時には苗ものを頂いています。

畑に苗を植える準備で、畝を作ったり、マルチを張ったりする仕事は、ていねいに教えていただき、施設の人と一緒に仕事をして、その大変さも味わっています。また畝と畝の間の溝に水がたまらないように深く掘る仕事などは、子供

の手では難しく地域の方の応援で出来ませう。野菜の種をまき、泥まみれになって草をとったり、たい肥をまいたり、たくさんの世話をしています。きついこともあるけど収穫の喜びがあり、楽しく活動しています。保護者からは「畑で野菜を育てるようになって好き嫌いもなくなりましたよ」との声も聞かれます。

放課後の短い時間ではありませんが日々の積み重ねが心身を強くしてくれます。

ボランティアで「町をきれいにする」活動もしています。地区の公民館の周りの花壇の世話をしています。

地域みんなが活動時間を一緒にするのが難しいので、それぞれに仕事の分担をしながら地域のみんなが助け合って活動しています。

区長さんに耕運をしていただき、花苗づくりは社会福祉法人の施設の方で行い、植える作業と日頃の世話は放課後児童クラブの子ども達が行います。そして除草等を老人会の方に手伝ってもらいます。そのコーディネーターを私が

しています。おかげできれいな花が咲き、道行く人が気持ちよくなりうれしいです。

子どもたちは地域の人たちに元気よく挨拶ができるようになりました。地域の良さにどっぷりとなついている放課後児童クラブの子どもたちです。



老人会の方達で除草

「手をつなぎ、支えあう強さ」

嬉野市 社会教育委員長

辻田 正信

社会教育委員となつて早や10年となります。この間、青年団や子どもクラブ、緑の少年団などの指導の経験を積むとともに、レク

リエーション上級指導者の知識も生かして高齢者・婦人団体等のレクリエーション指導を行いました。

これらを通し、地域・団体活動の必要性を繰り返し伝えることは、社会教育の重要性を認識してもらうことになるかと理解し取組んできました。

しかし数年前、教育長の提案により教育委員と社会教育委員の意見交換の場が設けられ、お互いの立場で意見を交わして市町の教育を考えていく必要性を教育長の言葉によって気付かされました。

「教育」とは学校における「教育」と家庭・地域社会での「教育」が車の両輪として連携していくことで、より豊かな学校・家庭・地域社会が強固な繋がりを持った市町になるのだと言うことを学ばせてもらいました。

過去において、青年組織や女性（婦人）組織、高齢者組織等が強力な結びつきにより戦後の昭和、平成の時代を支えてきたことはまぎれもない事実です。

時代の移り変わりとともに、その意識が薄れ、「個」を中心とした考えが強くなってきたとき、社会

教育は「個」をつなぐ接着剤としての役割があり、委員活動の重要性に改めて気付かされたのです。

今、私が関わりを持つている活動は、地域コミュニティ組織やコミュニティスクールでの活動に加え、「佐賀嬉野バリアフリーツアースセンター」の一員として、高齢者や障がい者の旅行支援とバリアフリーについての意識浸透を目標とした活動です。この活動の一つに、

市教育委員会の理解と支援をいただき、市内全小学校校の3・4年生に「心のバリアフリー」の授業と体験学習（高齢者疑似体験・車椅子操作体験・車いすテニス体験・ボッチャ体験）を実施しています。

子どもたちの心に、「支え合って生きていくことの大切さ」が少しでも芽生えてくれる事を願いながら接しています。今年3年目の授業に入りました。毎回、子どもたちからアンケートを頂きますが、その回答には、「心」のバリアに付き、命を大切にすることの理解が進み、学習と体験による成果が現れているように感じています。

「新型コロナウイルス」の感染拡大により、これまで積み上げてきた人間

関係が瓦解し、「心」を失ってしま
いそうなとき、この子どもたちが
未来を救ってくれると思うのは私
一人ではないと思います。先人が
小さな活動の積み重ねを続けられ
たことで戦後の復興は見事に成し
遂げられました。

そうであれば、今を生きる私達
もコロナ禍後の日本を「心」でつ
なげる未来に引き継ぐことはでき
るはずだと確信しています。

「人にやさしい町づくり」を掲げ
る本市にとつて、2024年佐賀
県で開催される第一回国民スポー
ツ大会と全国障害者スポーツ大会
はおもてなしをする絶好の機会で
す。全国から参加される多くの選
手や関係者の皆様に、喜んでいた
だけの環境作りに子どもたちと
もに市民一人ひとりの思いを結集
しています。

私は、いろいろな活動を続ける
中である一つのことに気付きまし
た。それは、どんな活動でも関わ
っていれば共通点があり、社会教
育につながるってくるのではないか
と言うことです。地域コミュニテ
ィの役員としてまた、コミュニテ
ィスクールの役員として市民活動

をサポートするとき、保護司や行
政相談委員として役割を果たすと
き、全てに関連性があり、人と人
とをつなぐ「コミュニケーション」
にかかわってきていたことです。
自分にできることを精一杯続
けることで、少しでも社会の役に
立つことができればと思ひ頑張つ
ています。つたない文章を最後ま
で読んで頂き有り難うございまし
た。



授業の様子

「玄海町の社会教育」

玄海町 社会教育委員

平川 裕美

私が社会教育委員として新た
に任命を受けた際、正直なところ
初めは不安でした。「社会教育委員

っていったい何なんだろう？」と、
その役割や本町の社会教育につい
て知らないことが多すぎて、心の
奥底には疑問や不安が存在してい
ました。しかし役割やこれまでの
実績を知る中で、社会教育委員と
いう役割には魅力があると感じる
ようになりました。

地域の繋がりが希薄になり、
様々な課題やニーズが生じます
が、その中でも学びの機会や繋がりを
提供することは、地域の発展に大
いに寄与できると信じています。
私は微力ながらも、それをサポー
トする役割を果たせれば良いと感
じています。

昨年度までの、コロナ禍という
困難な時期においても、「歩みを止
めない」ことを念頭に様々な社会
教育の機会を提供しましたのでそ
の一部について紹介します。

「アジ釣り体験」

アジ釣り体験を行おうと思っ
たきっかけは、民泊として町外の高
校生を受け入れている方との何気
ない会話からでした。

その方は町外の高校生に釣りを
教えたことはあるけど、町内の児

童生徒に教えたことはないとい
って、すぐに町内で体験会を開催し
ようとなりました。

案内を募ればすぐに応募が殺到
し、抽選せざるをくなりました。
海に面し、漁業や豊かな海産物
が豊富な我がまちで釣りの経験が
ないという子どもの多さに驚きま
した。

釣りは、自然と向き合い、静寂
な時間を過ごすことができる貴重
な経験で、子ども達にとつても有
意義な時間となったと思います。

「親子で食べられるカップづくり
SDGsについて学ぼう」

子ども料理教室は地元のパン屋
さんやフレンチレストランなどの
職人さんに協力を依頼しましたが、
コロナ禍に飲食を伴う講座の開催
が困難となりました。

そんな中、親子でコミュニケー
ションを図りながら、SDGsに
ついて学ぶ食べられるカップづく
りを開催しました。

SDGs 17の目標のうちの、目
標12（つくる責任、つかう責任）
と目標14（海の豊かさを守ろう）
について、親子で学び、プラスチ

ックごみを減らしていくために自分たちができることを考えました。そして、近くのお店からプラスチックのスプーンやストローが、なぜ、なくなってきたのかを知ることは大切なことだと学習しました。

学習した後は、「親子で食べられるカップづくり」の開始です。

食生活改善推進協議会の皆さんの協力のもと、牛乳を飲むときにプラスチックのカップを使わずに、飲んだ後にカップまで食べられるものを作ろうと親子で取り組み始めました。

生地づくりから、カップの成型そして、スプーンや好きな形のクッキーづくりまで、親子でしっかりとコミュニケーションをとりながら作りました。

子どもたちは家庭でもよくお手伝いをしているのでしよう、とても手際よく調理をして、後片付けもしつかり行っていました。

持ち帰ったカップに牛乳を注いで、SDGsについてきくと家族で語り合ったことと思います。

最後に、今回の講座の成功には、参加者の皆さんの熱意やボランティア

の方々のご支援やご協力が欠かせませんでした。今後も、地域の皆さんに魅力ある社会教育の提供に私たちは努力を惜しまず活動してまいりたいと思います。



カップ作りの様子

「スポーツのチカラで地域活性」

有田町 社会教育委員

久保田 誠

私は有田町スポーツ協会の会長を仰せつかり、少しでも充実した活動ができればと思っていました。たがコロナ禍で3年間スポーツ大会などが開催できませんでした。

令和4年度の県民スポーツ大会が久しぶりに10月に開催され、有田町スポーツ協会役員で3日間

応援に回りました。その時はものすごく暑くて、日陰に入って休みたいなど思ったりしていましたが、有田町選手の皆さんが頑張っている姿を見て、心の中で熱く感動しました。結果は、見事「町の部」で優勝し、各種目の人たちと喜びを分かち合いました。

また、今年3月のWBC大会では日本が見事優勝して国民に感動と元気を与えてくれました。改めてスポーツの楽しさ、素晴らしさを感じさせてくれました。

さて、有田町スポーツ協会ではコロナも下火になり、令和5年度は例年通り各大会を開催できると思っています。年間行事では4月・5月に有田陶器市協賛大会として、中学校招待軟式野球大会、中学校招待ソフトボール大会、会長杯争奪少年野球大会、家庭婦人バレーボール大会、九州社会人卓球大会など、また、6月には前期町民オリンピックとして、バレーボール、軟式野球、グランドゴルフなどの大会が開催されました。9月は町民スポーツ大会、10月は後期町民オリンピックとして、ソフトボール、卓球、ソフトテニス、駅伝競

走、ミニバレーボール、ゲートボール、バドミントンなどが行われる予定です。10月中旬には県民スポーツ大会にも各種目参加します。町民オリンピックは区対抗、町民スポーツ大会では、旧有田地区が区対抗、旧西有田地区は集落対抗となります。ここ3年間行われなかったのが、各地区の体育部長も経験のない方が多く心配していましたが、会議において前向きな意見を出していただき、コロナ前のように充実した大会が開催できると期待を持っています。

有田町社会教育委員会は、文化協会、老人クラブ連合会、自治公民館長会、地域婦人会、子どもクラブ連絡協議会、スポーツ協会、小中学校校長会の代表と、公募委員で組織されています。お互いが尊重し、意見を出し合って活動していきたいと思えます。



前期町民オリンピック
「バレーボール」

編集後記

今年の総会・基礎研修会には、昨年度より多くの皆さまにお集まりいただき、感謝申し上げます。

今号では、基礎研修会の概要を掲載しました。トークセッションでは、3人のパネリストの方がそれぞれに図書館の整備や読書活動を行う中で、地域の子どもや高齢者、市民のボランティアグループなどとも連携して、誰もが本を通じたコミュニケーションを楽しめる地域創り（づくり）を感じることができました。

アンケートでも大変好評をいただきました。

村上春樹の新作「街とその不確かな壁」で主人公が館長を務める図書館のモデルは福島県南会津にあるのではと話題になっています。皆さんも物語を読んで確かめてみてはいかがでしょうか。

さて、第11号から社会教育委員の皆さまに「わたしの社会教育委員活動」というテーマで、それぞれの委員の方の多方面での活動を執筆いただいています。

基本的には市町の輪番による

執筆ですが希望される場合はご連絡ください。

佐賀県社会教育委員連絡協議会事務局（佐賀県県民環境部まなび課）
〒840-8570（住所不要）

TEL 0952（25）7313

Fax 0952（25）7406

✉ manabi@pref.saga.lg.jp
